

◆震災直後の福島民報
寄贈 一般財団法人・人間自然科学研究所（松江市乃木福富町、小松電機産業内）がこのほど、東日本大震災の発生直後に発行された福島県の地元紙「福島民報」を、松江市西津田6丁目の市立中央図書館に寄贈した。

震災発生翌日の2011年3月12日から1カ月の新聞で、福島で水管理システムを運用する小松電機産業社員が当時、

現地を訪れた際に住民から譲り受けた。資料として活用してもらおうと、図書館に託した。

館内で寄贈式があり、津波が車や漁船を押し流す様子や原発事故が大きく扱われた紙面を、小松昭夫理事長が広げて披露した。

同館は11年6月15日以降の福島民報を所有しており、吉田紀子館長は「震災直後の情報も利用者に提供できる」と感謝した。求めに応じて館内で閲覧できるようにするという。



吉田紀子館長（左から2人目）らに、寄贈した福島民報を披露する小松昭夫理事長（中央）